



アゼルバイジャン共和国

Republic of Azerbaijan

2007年10月現在



一般事情

- 1.面積 8万6,600平方キロメートル
(我が国の約4分の1、北海道よりやや大きい程度)
- 2.人口 853万人(2007年)
- 3.首都 バクー
- 4.民族 アゼルバイジャン人(90%)
ロシア人(2.5%)、アルメニア人(2%)
(2005年:CIS統計委員会)
- 5.言語 公用語はアゼルバイジャン語
(テュルク諸語に属し、トルコ(共和国)語やトルクメン語に近い)
- 6.宗教 イスラム教シーア派が優勢
- 7.通貨 マナト(Manat:1994年1月1日導入)(CIS統計委員会)
為替レート 1ドル=約0.95マナト(2005年平均値推定値:EBRD)
補助通貨単位 100ギャピック = GYAPIK

8.査証(ビザ)

- 9.在留邦人数 37人(2007年2月現在)
- 10.在日当該国人数 45人(2005年末現在)
- 11.電源 V Hz
- 12.国際電話 国番号 994 国際通話コード 810

13.シガレット

- 小売価格 - US\$ (20本当り)
- 税率 - %
- 製造数量 3,250 (百万本/年)
- シガレットメーカー

Bakinsky Tabachnyi Komb
Baku Tutun Joint Stock Co
European Tobacco Baku

14.略史

年月	略史
紀元前6-4世紀	カフカース・アルバニア王国
3-7世紀	サーサーン朝ペルシアの支配
7-10世紀	アラブの支配
11世紀-	トルコ系諸民族の大量流入
11-13世紀	セルジューク朝諸政権の支配
13世紀	モンゴル帝国に編入、イル・ハーン朝の支配
13-15世紀	テュルク化の進行
16世紀	サファヴィー朝の支配下に入り、シーア派を受容
16-19世紀	イランのサファヴィー朝、ガージャール朝による支配
1813-28年	ロシア・イラン戦争の結果、ゴレスタン条約とトルコマンチャライ条約により北アゼルバイジャンがロシアに併合
1918年5月	アゼルバイジャン人民共和国独立宣言
1920年4月	バクーにソヴィエト政権樹立、アゼルバイジャン・ソヴィエト社会主義共和国成立
1922年	グルジア・アルメニアと共にザカフカース社会主義連邦ソヴィエト共和国を形成、ソ連邦結成に参加
1936年	アゼルバイジャン・ソヴィエト社会主義共和国として連邦に加盟
1988年2月	同共和国内のナゴルノ・カラバフ自治州においてアルメニアへの帰属替えを求めるアルメニア人の運動が高揚。
1989年10月	共和国主権宣言
1990年1月	バクー事件(ソ連邦中央によりバクーを軍事制圧)
1991年2月	「アゼルバイジャン共和国」に国名変更
1991年8月	共和国独立宣言
1993年10月	ヘイダル・アリエフ大統領就任
1994年5月	アルメニアとナゴルノ・カラバフ紛争に関し、停戦協定締結
1998年10月	ヘイダル・アリエフ大統領再任
2003年10月	イルハム・アリエフ大統領就任

15.在外大使館・領事館

在アゼルバイジャン日本国大使館
Embassy of Japan in Azerbaijan
Address: Hyatt Tower III, 5th-6th Floors, 1033, Izmir Str. AZ 1065 Baku, Azerbaijan
Tel: +994 12 490 78 18/19/22/23 Fax: +994 12 490 78 20

16.駐日大使館・領事館

アゼルバイジャン共和国大使館 (Embassy of the Republic of Azerbaijan)
 〒152-0021 目黒区東が丘1丁目19-15
 電話: 03-5486-4744

政治体制・内政

- 1.政体 共和制
- 2.元首 イルハム・アリエフ大統領 (任期5年、2003年10月31日就任)
- 3.議会 一院制 (任期5年、定数125、前回選挙は2005年11月6日)
- 4.政府 (1)首相 アルトゥール・ラシザデ
(2)外相 エルマル・メメディヤロフ
- 5.内政 独立後、テロ、クーデター騒ぎ等が頻繁に発生し不安定な時期が続いたが、1993年に成立したハイダル・アリエフ政権下で情勢は安定化。
2003年4月、10年にわたり権力の座にあったハイダル・アリエフ大統領が病に倒れ、同年12月に米国で死去。
2003年10月、大統領選挙で前大統領の長男イルハム・アリエフ首相が圧勝。
2005年11月の議会選挙でも、アリエフ大統領率いる与党「新アゼルバイジャン党」が過半数を制する等、与党系候補が圧勝。良好な経済状況を背景に、アリエフ大統領は安定した政権運営を行っている。

外交・国防

- 1.外交基本方針 米露とのバランスを考慮しつつ、伝統的友好国のトルコ、アゼルバイジャン人が多く住むイランとも等距離善隣外交を継続。
外交上の最大の懸念は、アルメニアとの間のナゴルノ・カラバフ紛争。1994年に停戦合意したものの紛争は未解決。
- 2.軍事力 総兵力66,740 (陸軍56,840、海軍2,000、空軍7,900) (ミリタリー・バランス2006年)

経済

- 1.主要産業 石油産業、農業
- 2.GDP 128億ドル (2005年: EBRD)
- 3.一人当たりGDP 1,521ドル (2005年: EBRD推定値)
- 4.経済成長率 34.5% (2006年: アゼルバイジャン国家統計委員会)
- 5.物価上昇率 8.5% (2006年: EBRD推定値)
- 6.失業率 1.4% (2005年: EBRD推定値)
- 7.総貿易額 (1)輸出 63.72億ドル (FOB) (2006年: 国家統計委員会)
(2)輸入 52.65億ドル (CIF)
- 8.主要貿易品 (1)輸出 石油及びガス (90%)、(2005年: CIA THE WORLD FACTBOOK)
(2)輸入 機械設備、石油製品、食材、金属、化学製品
- 9.主要貿易相手国 (2005年: CIA THE WORLD FACTBOOK)
(1)輸出: イタリア、フランス、ロシア
(2)輸入: ロシア、英国、シンガポール
- 10.通貨 マナト (Manat: 1994年1月1日導入) (CIS統計委員会)
- 11.為替レート 1ドル = 約0.95マナト (2005年平均値推定値: EBRD)
- 12.経済概況 独立前後にアルメニアとの戦争や度重なる政変を経験し、経済も激しく疲弊したが、1990年代半ばからはカスピ海への石油投資ブームを背景に経済は好転、10%前後の高成長が継続。2006年の経済成長は34.5%。
現段階で最も先行するACG油田開発 (日本企業も参加) によって採掘される原油の主要輸送路としてBTCパイプラインの建設 (日本企業も参加) が2006年6月に完成。
2007年からはシャフ＝デニズ鉱区におけるガス生産開始により、今後も当面高い経済成長が続く見込み。

経済協力

- 1.我が国の援助実績 ((1)～(2)は、何れも交換公文ベース)
(1)有償資金協力 683.11億円 (2005年度までの累計)
(2)無償資金協力 57.92億円 (2005年度までの累計 / 文化・草の根無償等を含む)
(3)技術協力実績 24.04億円 (2005年度までの累計)
DAC諸国のODA実績 (過去5年) (支出純額、単位: 百万ドル)

2.主要援助国 (2005年)

米国、ドイツ、フランス、日本

暦年	1位	2位	3位	4位	5位	合計
2001	日本	米	独	ノル	蘭	148.4
		101.0	30.9	6.8	ウエー	
2002	日本	米	独	スイス	蘭	232.1
		141.8	61.5	9.8	5.7	
2003	日本	米	独	ノル	蘭	158.5
		79.9	49.3	13.6	ウエー	
2004	米	独	日	ノル	蘭	92.3
		47.6	17.0	9.6	ウエー	
2005	米	独	仏	日	ノル	109.7
		44.1	19.1	15.1	8.3	

二国間関係

1.政治関係

- (1) 国家承認日 1991年12月28日
- (2) 外交関係開設日 1992年9月7日
- (3) 我が国大使館開館 2000年1月21日
- (4) 在日アゼルバイジャン大使館開設 2005年10月12日
(出典: DAC/International Development Statistics)

在アゼルバイジャン日本大使館開設以来、ODAによる積極的な国造り支援により、二国間関係は順調に発展している。

2.経済関係

- 我が国の対アゼルバイジャン貿易
- (イ) 貿易額 (2006年: 財務省貿易統計)
 - 輸出 183億円
 - 輸入 1.6億円
 - (ロ) 主要品目 (2006年: 財務省貿易統計)
 - 輸出 機械類及び輸送用機器
 - 輸入 非鉄金属

3.文化関係

- 文化無償5件
- 1998年度 青年スポーツ省に対するスポーツ機材供与 (49百万円)
 - 2000年度 アゼルバイジャン国立交響楽団に対する楽器供与 (47百万円)
 - 2002年度 バクー国立大学に対するLL機材供与 (37百万円)
 - 2003年度 国立オペラ・バレエ劇場に対する照明機材 (0.43億円)
 - 2004年度 国立図書館に対するマイクロフィルム及び視聴覚機材 (0.50億円)

4.在留邦人数

37人 (2007年2月現在)

5.在日当該国人数

45人 (2005年末現在)

6.要人往来

(1) 往 (1993年以降)

年月	要人名
1999年5月	高村外務大臣
1999年10月	コーカサス友好親善ミッション (中山太郎衆議院議員団長)
2002年7月	杉浦外務副大臣
2003年2月	矢野外務副大臣
2003年9月	本岡参議院副議長
2004年8月	甘利衆議院議員 (日本・アゼルバイジャン友好議員連盟会長)
2005年1月	逢沢外務副大臣
2005年7月	原田義昭衆議院議員
2005年12月	山際衆議院議員
2006年7月	山中燐子 外務大臣政務官
2007年8月	松島みどり外務大臣政務官

(2) 来 (1992年以降)

年月	要人名
1992年10月	ガスイモフ外相 (旧ソ連邦支援東京会議)
1996年5月	アリエフ・アゼルバイジャン共和国国営石油会社総裁、 アリエフ同第一副総裁 (大統領の子息、国会議員)
1998年1月	ラシザデ首相 (世界銀行主催支援国会合)
1998年2月	ハイダル・アリエフ大統領 (公式実務訪問賓客)
1999年3月	シャリフォフ副首相
1999年10月	シャリフォフ副首相 (日・アゼルバイジャン経済合同会議)
2001年6月	グリエフ外相 (コーカサス三カ国展)
2001年11月	シャリフォフ副首相 (日・アゼルバイジャン経済合同会議)
2005年5月	シャリフォフ副首相 (博覧会賓客)
2006年3月	イルハム・アリエフ大統領 (実務訪問賓客)

6.二国間条約・取極

2005年5月 旧ソ連邦との間で結んだ条約の承継を確認